

第6次  
夕張市社会教育中期計画

2017年度～2021年度

夕張市教育委員会

# 目 次

はじめに	・・・・・・・・・・・・・・・・	1
------	------------------	---

## 第1章 第6次夕張市社会教育中期計画

1	計画策定の意義	・・・・・・・・	2
2	計画の考え方	・・・・・・・・	2
3	計画の目指す姿	・・・・・・・・	3
4	計画の名称と期間	・・・・・・・・	3
5	計 画	・・・・・・・・	4
6	主な取り組み	・・・・・・・・	5

## 第2章 「広がりのある社会教育体系に向けて」（答申）

	はじめに	・・・・・・・・	6
1	夕張市の社会教育が抱える課題	.....	7
2	これからの夕張が目指す社会教育の形	.....	13

## 資 料

第6次夕張市社会教育中期計画策定について	諮問	.....	16
第6次夕張市社会教育中期計画策定について	答申	.....	17
審議経過・策定委員名簿・構造図		.....	18

## はじめに

夕張市教育委員会  
教育長 今 勉

夕張市は、地方版総合戦略の基本理念に「夢」を主語とし、チャレンジするまちに変わることがを宣言しました。

これを受け、地域のみなさまが未来（あす）に向かって、夢や希望に満ちた心身ともに逞しく、健康に過ごせるまちづくりに努めてまいります。

また、市民生活が心豊かなものになるため、生涯にわたりスポーツや文化に親しみ、生きがいの感じられる生涯学習社会の実現に向けた地域づくりを推進してまいります。

このため、教育に携わるすべての関係者が、それぞれの果たすべき役割と責務を自覚し、地域の発展を支える教育の役割を果たす環境づくりに取り組んでまいります。

「第6次夕張市社会教育中期計画」は、今後5カ年の方向性を示すものです。市民のみなさまが、夢と希望を実感していただけるよう、みなさまとともに歩んでまいりたいと心から願っております。

おすびに、社会教育委員各位には、計画策定に向けてご協力を賜りましたことに感謝申し上げるとともに、今後も社会教育推進のために、お力添えを賜りますよう心よりお願い申し上げます。

## 第1章 第6次夕張市社会教育中期計画

### 1. 計画策定の意義

人口の減少、高齢化が進む日本において、長い職業期・高齢期をより充実した豊かなものにし、その培った技術や知識を地域や次世代に還元することは、地域づくり、生きがいつくりの観点からも重要であると考えます。

一方で、少子化や核家族化は、家庭の教育力の低下や孤立した子育てにつながる要因の一つとなるなど、家庭教育を巡る問題は深刻化しています。

このため、市民が主体となり、支え合える地域づくりを進めるためには、地域課題に対応した生涯にわたる学習活動がますます重要であり、社会教育行政に期待される役割も非常に大きなものになっています。

これらの観点に基づき、人と人、地域と地域をつなげ、人生をより豊かにする学びが推進される生涯学習社会の醸成に向け、本計画の策定にあたりました。

### 2. 計画の考え方

この計画は、第5次夕張市社会教育中期計画の反省・評価及び社会教育委員による各分野に対する本市の現状についての意識調査を基礎資料とし、夕張市民憲章や本市の財政状況、国及び北海道の教育の流れを踏まえながら、これからの本市の社会教育の方向性を明らかにするものです。

### 3. 計画の目指す姿

生涯学習社会の主役は市民です。そして生涯学習社会構築の歯車の一つとして、広い視野を持ちその機能を発揮することが、社会教育行政には求められています。

本市の社会教育分野においては、パートナーシップ（協働）の重要性が市民にも十分理解され、市民が自身のため、子どもたちのため、お年寄りのため、地域のために活動しています。

第6次計画では、行政と、様々に活動する市民同士が手をつなぎ、さらに広がる活動への発展を目標に、生涯を通じた学びの中で子どもも大人も育ちあう地域社会を目指します。

### 4. 計画の名称と期間

この計画の名称を「第6次 夕張市社会教育中期計画」とし、期間は2017（平成29）年度から2021（平成33）年度の5カ年とします。

なお、施策の具体的な事業等については、単年度の社会教育計画の中で示し、年度ごとの事業の反省と評価を積み重ね、目標の達成に努めます。

## 5 計画

	施策の柱	推進事項
全 領 域	ネットワーク型社会教育活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>行政、地域、企業、市民団体、学校教育との連携による効果的な事業展開</li> <li>学校支援体制の推進</li> </ul>
	各団体・地域コミュニティの活性化	<ul style="list-style-type: none"> <li>既存施設、既存制度の情報発信</li> </ul>
家庭 教育 子ども・	地域、家庭の教育力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>集える子育て環境の整備</li> <li>学習機会の充実</li> </ul>
	子どもたちの健やかな育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然体験学習、郷土学習の充実</li> <li>学力・体力の向上</li> </ul>
社会 教育 事業	学習活動の支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習情報提供、相談機能の充実</li> </ul>
	芸術の振興	<ul style="list-style-type: none"> <li>芸術に触れる機会の提供</li> </ul>
	歴史文化の保護継承	<ul style="list-style-type: none"> <li>石炭博物館の有効活用</li> <li>文化財の啓発や調査、保護</li> </ul>
	集える施設づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設を中心とした学習活動の推進</li> </ul>
振興 事業 体育	生涯スポーツの振興	<ul style="list-style-type: none"> <li>愛好者の拡大と指導者の育成</li> </ul>
	既存施設の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>ニーズを踏まえた整備と活用</li> </ul>
読書 活動	図書館機能の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>図書コーナーからの情報発信</li> <li>利用しやすい資料整理</li> <li>道立図書館支援事業の活用</li> <li>他図書館との交流</li> </ul>
	学習支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭・子ども読書支援の推進</li> <li>学校との連携</li> <li>学習相談業務</li> <li>ボランティア活動のサポート</li> </ul>

## 6 主な取り組み

- 【全 領 域】 連携・協働による事業の推進  
コミュニティ・スクールの導入
- 【子ども・家庭教育】 体力向上事業の推進  
子育て世代と地域をつなげる事業の推進  
自然体験学習・郷土学習の教材の作成
- 【社会教育事業】 時代に即した機会事業等の充実  
生涯学習関連団体との協働による事業展開  
人材バンクの整備  
鑑賞事業（舞台・美術品等）の実施  
石炭博物館展示物等歴史文化遺産の充実と活用  
文化財の調査と周知  
展示、発表機会の提供と支援
- 【体育振興事業】 施設利用や事業に関する情報発信  
総合型スポーツクラブの設立と支援  
指定管理者への指導、助言
- 【読書活動】 図書コーナーの活動および資料についての情報発信  
利用に即した資料整理と提供（とくに郷土資料）  
道立図書館支援事業の活用  
他公共図書館との連携  
蔵書及び巡回用図書の充実  
学校読書活動支援  
（朝の読み聞かせ・学校図書室支援等）  
ブックスタート事業  
読み聞かせボランティアの活動サポート  
読書推進のための文化活動  
図書館講座・研修への参加

「広がりのある社会教育体系に向けて」

(答申)

平成28年12月20日  
夕張市社会教育委員の会

## 「広がりのある社会教育体系に向けて」

(答申)

はじめに

夕張市社会教育委員の会は、平成28年9月1日付けで教育委員会から「第6次社会教育中期計画」について諮問を受け、今後5年間の本市社会教育推進上の課題について協議いたしました。

協議にあたっては、社会教育各担当者からの前計画の評価資料、及び社会教育委員による各分野に対する意見収集アンケートなどをもとに検討しました。

社会教育担当職員の皆さんにおかれましては、破たんからの10年、真に必要なものを見据え、持続可能な新しい社会教育の形を確立するための挑戦の期間ではなかったかと思えます。人と人を結び、市民の力を信じ、そして生まれた現在の社会教育体系は、新しくも、社会教育の根本に立ち返る「行政と市民」の信頼関係を築くものとなりました。

私ども社会教育委員の会としましても、過去2回の答申については、ピンチをチャンスに、混乱期をいかに乗り切り展望のもてる未来へつなぐ期間にできるかを考えた、人や地域、時代を“つなぐ”視点に立った社会教育を目指すための答申でありました。

これからの5年間は、確立された本市の新しい社会教育体系をさらに進め、住む人が手をつなぐことで生まれる「広がりのある社会教育体系」を目指すための答申といたしました。

夕張市は今、大きな変革の一步となる節目を迎えています。社会教育分野においても、大きな前進の5年になるよう、関係各位の一層の努力と連携による、効果的で着実な取り組みに期待するところです。

## 「夕張市の社会教育が抱える課題」

～第5次夕張市社会教育中期計画反省・評価～

### 1 全体で取り組む視点

#### ① ネットワーク型社会教育の推進

連携に重点を置いた事業展開については、この5年でも進み、当市においては新しい社会教育推進の形として構築されてきている。学校支援地域本部事業は、ボランティアが児童生徒とより緊密に関わる内容に転換した支援体制となった。

##### 課題

子どもたちが地元を知る「ふるさと教育・職業教育」の一助とするため企業と連携した生涯学習事業等の推進。

#### ② 各団体・地域コミュニティの活性化

文化芸能団体や地域の育成団体等社会教育関係諸団体の活動は、高齢化や構成数の減少などによる停滞感はあるが、各団体の活動は既存施設等を活用し努力されている。行政として、ソフト面での支援は継続しているものの、集う拠点となる社会教育施設の立地、設備、交通などの利便性向上は難しい状態。

##### 課題

地域の育成会や町内会単位の活発な活動の支援。

生涯学習・社会教育関係諸団体の活動支援と活性化。

学習者の底辺拡大のための展覧会・発表会の開催やきっかけづくりの講座実施。

## 2 社会教育活動

### ① 学習活動の支援

広く広報紙や生涯学習カレンダーの活用、また対象年齢が限られた事業については幼保育所や学校を通じたチラシによる周知で対応。しかしながら紙媒体よりも口コミなどの集客が勝ることから、「届けたいところに届く」発信方法の検討も必要。

個人主体の学習形態は今後も主流と考えることから、他団体や他自治体の学習情報の提供は今後も必要である。

学習相談に対しては、これまで同様講師の紹介などを実施してきたが、名簿が未整備の状況。学習形態の変化や人口減により、集団での学習活動に対する相談等は多くはないが、社会教育部署で地域の人材を知り、市民の学習相談に答え得るパイプを多くもっていることは重要であるため、人材の発掘、コーディネーター機能の向上は不可欠。

#### 課題

既存事業の周知徹底

「届けたいところに届く」発信方法の構築

### ② 子どもを取り巻く環境の構築

学校の統合等により、子ども対象の公民館事業では、地域住民や子どもの健全育成に関わる大人が、子どもを知るきっかけとなるよう企画してきた。学校支援事業の一環でバス停や通学時の見守り活動などは継続されているが、各地区においては少ない子どもたちやその保護者との接点がなかなかない状況。

自然体験（石炭や化石）学習については、学校や青少年団体からの依頼を受け、学芸員が対応している。郷土学習の教材は平成 22 年度の事業として資料収集は済んでいるが、教材制作に至っていない。石炭博物館のリニューアルともあわせ、子ども向け郷土学習教材の作成が急務。

家庭教育事業については、国・道の重点施策を受け、生活リズム向上の取り組みや土曜日を有効活用した事業を新規事業として推進。また生涯学習カレンダー「まなび～ば」を通じて、子どもだけではなく、保護者ともつながっていく事業展開を心がけ、家庭教育の情報提供を続けている。

課題

地域が主体となり、子どもや保護者との関わりが活発になる事業の推進  
子ども対象事業のニーズ調査と参加者の増。

全体のレベルアップに向け、保健分野・子育て支援分野との連携を強化した家庭教育への働きかけ。

③生涯スポーツの振興

体育振興事業については、施設管理にとどまり、集め・広めるところまでは実施できなかった。

子どもの運動能力向上に的を絞り、平成 25 年度から“走”に重点をおき毎年教室を開催。平成 27・28 年度で、日体大の協力のもと、家庭環境と運動能力について調査を進め、保護者や幼児教育関係者の意識向上を目指している。

また、地域おこし協力隊を活用した体育協会支援を推進し、総合的なスポーツ環境の整備に着手し始めている。

課題

スポーツ人口の底辺拡大。

NPO 法人夕張体育協会と協働での事業実施を検討。

子どもたちの体力向上に資する事業の計画的な実施。

④文化と芸術の振興・文化財の保護継承

・展示、発表機会の提供と支援

美術館市民ギャラリーの代替として公民館での展覧会については料金体制を見直し市民の負担軽減を図った。無料で利用できる庁舎内の展示スペースは年間隙間なく活用されている状況。年 3 回程度、市収蔵品の展示も実施。その他、公共施設に展示スペースを整備。

市民会館が廃止になり、芸能団体の発表に適した会場がない。

・芸術鑑賞事業の計画的実施

平成 22 年度以降復活した市からの補助金により、小中学校において年 1 回ずつの鑑賞教室を実施。過去に実施していた一般向け鑑賞事業については現在も未実施。

・文化財の啓発や調査・保護

平成 24 年に「夕張シューパロ湖周辺の橋梁群とその景観」を市文化財に登録。

また風雪や凍結により劣化の著しい「採炭救国坑夫の像」については修復に係

る調査を進めつつ、当面冬囲い等により保存している状況。

課題

公民館や庁舎内展示スペースの定期的な環境整備。

芸能団体発表会場の確保。

美術品の整備と更なる活用。

文化財の保存、活用及び継続的な市民周知。

### 3 社会教育・体育施設

#### ①既存施設の整備

- ・利用し易く親しみ易い施設整備

文化スポーツセンターの幼児軽運動場、トレーニング室の改装を実施。

平和運動公園はネーミングライツの導入により芝管理が比較的良好に保たれている。色あせていたテニスコートの壁面は、建設業協会と中学校美術部の協力により壁面アートが完成（H26・27）。

公民館は利用しやすいよう、展覧会の際の料金体制の見直しや施設備品整備などを少しずつ進めている。

- ・情報の交流・発信の場の提供

生涯学習カレンダー紙面や市ホームページでの情報発信は継続して行っている。また文化団体やスポーツ団体が互いの情報を交流でき、学習欲求や既存団体の会員増につながるよう情報交流コーナー（パネル）を設置している。

- ・指定管理施設の円滑な運営

夕張岳ヒュッテは新ヒュッテ供用開始に伴い、旧ヒュッテを解体。南部体育館はH25年度末で指定管理者から返上されている。

紅葉山PG場は管理団体の変更はあったが、今年度も運営されている。

市営球場、市民健康会館については老朽箇所も多いが、現状変わらず運営されている状況である。

課題

ニーズを踏まえた社会教育体育施設の整理と活用。

文化芸能団体発表会場の確保。

文化スポーツセンターの指定管理の推進。

- ・石炭博物館の管理運営

観光施設だった石炭博物館等は、夕張リゾート指定管理期間中の平成 25 年度に教育施設となった。また平成 27 年度に指定管理を返上され、本年度は直営での運営となっている。

炭鉱生活館は平成 27 年に解体。石炭博物館は平成 28 年度で模擬坑道の改修工事を実施。29 年度に博物館本体の改修を予定している。

課題

平成 30 年度以降の安定した運営方法の検討。

老朽した SL 館（休館中）に展示している SL の活用方法の検討。

#### 4 読書活動

##### ① 図書館機能の充実

- ・図書コーナー活動の情報発信

情報発信には改善の余地あり。企画展示なども利用者増にはつながっていない。

- ・道立図書館貸出制度の活用

年3回、制度を利用し本の入れ替えを実施。その時期を狙って来館するリピーターも多い。小学校で実施しているブックフェスも子どもたちに人気があり、本に触れる機会でもあり、児童・教職員・ボランティアの交流の場でもある。

- ・清水沢図書コーナーの充実

利用者の利便性を高めるため公民館内にも図書コーナーを設置。その他にも巡回文庫（学童・幼稚園・福祉施設等）を実施している。図書購入費は限られており、配本用には寄贈図書も活用。

- ・他図書館との情報交換

常に新鮮で正確な情報の提供をするためにも、司書やボランティアの研修機会、司書同士の交流による情報交換は重要。利用者から希望された図書を提供するためにも他図書館との交流（相互貸借）は不可欠である。

課題

図書コーナーからの情報発信の充実。

巡回文庫ボランティアの増員。

利用し易い立地も重要。

## ② 学習支援の充実

### ・子ども読書支援の推進

市民団体「夕張子ども文化の会」の協力で平成 21 年度からブックスタート事業を実施してきた。親子の絆を深め子どもの情操教育にも資する本事業は非常に重要であると考え、団体への外部からの補助金が 28 年度で終了するため事業継続への手だてが必要。

### ・学校支援の強化

小学校で 1～3 年生の学級で司書とボランティアによる「朝の読み聞かせ」を毎週 1～2 回実施。学校からの要請を受け平成 27 年度からは 4～6 年生にも司書によるブックトークを実施。ボランティアの協力を得ながら図書室及び図書の整備も継続して実施している。

### ・調査相談業務

郷土資料の整理が追いつかず、一般の調査研究のための資料提供の役割は果たされていない状況。資料整理と併せ、道立図書館のレファレンスサービスを積極的に利用したい。

### ・ボランティア活動のサポート

読み聞かせ活動はどんどん広がりを見せている中、子どもたちの読書活動をより促進できるよう、ボランティアが活動しやすいような環境を今後も作り、研修会への参加や次世代のボランティアの育成を進めたい。

### 課題

ブックスタート事業の継続（絵本購入予算の確保）。

郷土資料の整理。

読み聞かせボランティアの新規育成。

## 「これからの夕張が目指す社会教育の形」

～第6次中期計画における社会教育の進むべき方向～

第4次社会教育中期計画策定中にでた財政破たん報道により、第4次・第5次の社会教育中期計画（平成19年度～28年度）では、市民はもとより社会教育担当者、さらには我々社会教育委員にとっても、多くの我慢や取捨選択を迫られた社会教育分野であった。

しかしながら、これまでの10年を振り返ると、社会教育寸断の不安の中にありつつも“新しい社会教育”を模索し続けた結果、まさに、「新しい」社会教育・市民活動の形に転換される機会ではなかったかと改めて感じているところである。今回の各社会教育委員への意識調査では、この5年間に推進された事業や施設運営の反省評価を踏まえ、これからの夕張に必要な社会教育課題として次の事項が重点としてあげられた。

ひとつめに、未来をつくる子どもたちを取り巻く環境の醸成である。

子どもを対象とした事業については、行政をはじめ市民団体でも実施してきているが、今後一層、広い視野での様々な体験や教育支援が望まれる。また、保護者同士のつながりを重視することで、孤立することなく、多様な価値観のもと家庭教育が進められ、子どもたちが伸び伸びと育つよう、行政と地域、保護者が一体となった家庭教育支援となるよう期待したい。

ふたつめに、生涯学習社会構築の中心ともいえる学習空間の環境整備である。

地域住民に親しまれ、みんなが集える空間に賑わいは生まれ、文化芸術の発表の場があることで、学習の継続や新たな学習者の発掘・継承へ広がる。既存施設の充実も含め、市民の健康増進、社会参画、仲間づくりのために、明るい未来への変化を実感できる環境整備を推進していただきたい。また、社会教育・体育施設利用者の利便を考え、地域性からも交通体系の整備は非常に重要であるため、あわせて考慮いただきたい。

さらに、平成25年に観光施設から教育施設となった石炭博物館については、石炭産業の歴史を後世まで伝える貴重な施設として、郷土学習をはじめ、幅広い方たちに活用される博物館になることを期待しているところである。

今回の答申については以上のことを重点に、第5次策定時の4分野に「子ども・家庭教育」を加え、5つの分野での課題提起としたい。

①全領域 ②子ども・家庭教育 ③社会教育事業 ④体育振興事業 ⑤読書活動

①全領域

目 的	課 題
ネットワーク型 社会教育活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 行政間、地域、企業、市民団体、学校教育との連携</li> <li>• 学校支援地域本部事業の推進</li> </ul>
各団体・ 地域コミュニティの活性化	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 地域主体、団体主体の事業の支援</li> <li>• 団体間、地域間の情報の交流</li> <li>• 既存制度の周知</li> </ul>

②子ども・家庭教育

目 的	課 題
地域、家庭の教育力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 集える子育て環境の整備</li> <li>• 情報の発信と交流</li> </ul>
子どもたちの健やかな育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 自然を生かした体験学習・ふるさと教育の推進</li> <li>• 考える力や意欲を伸ばす活動</li> <li>• 学力、体力の向上に資する活動</li> </ul>

③社会教育事業

目 的	課 題
学習活動の支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 学習機会の提供</li> <li>• リーダー及び指導者の育成・発掘</li> </ul>
芸術の振興	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 美術品の活用と芸術に触れる機会提供</li> <li>• 文化、芸能、郷土芸能団体の活動支援</li> </ul>
歴史文化の保護継承	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 文化財、文化遺産の調査及び保護</li> <li>• 石炭博物館等の活用と管理運営</li> </ul>
集える施設づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 既存施設の整備と活用</li> <li>• 生涯学習の拠点としての機能活用</li> </ul>

#### ④体育振興事業

目 的	課 題
生涯スポーツの振興	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 愛好者の拡大と指導者の育成</li> <li>• “身近なスポーツ環境” の醸成</li> </ul>
既存施設の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 施設の有効活用、情報発信</li> <li>• 利用し易い料金体制の見直し</li> <li>• 老朽箇所の計画的修繕</li> </ul>

#### ⑤読書活動

目 的	課 題
学習支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 家庭教育・子育て支援</li> <li>• 学校図書室との連携</li> <li>• 学習相談業務</li> <li>• ボランティア活動のサポート</li> </ul>
図書館機能の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 行きたくなる学習施設</li> <li>• 公共図書館との連携</li> <li>• 図書情報の発信</li> </ul>

# 資 料

平成28年9月1日

夕張市社会教育委員の会  
委員長 小 網 敏 男 様

夕張市教育委員会  
委員長 氏 家 孝 治

### 第6次夕張市社会教育中期計画の策定について（諮問）

本市は、平成24年度から平成28年度までの5カ年、第5次夕張市社会教育中期計画を策定し、諸施策の推進を図ってまいりました。

この間社会教育は、計画に基づき人と人・地域と地域を結び、さらに学校を中心とした地域社会の再構築に向けた新しい社会教育体系を目指してきたところであります。

平成25年には石炭博物館が教育施設となり、平成27年には「博物館類似施設」から「博物館相当施設」となりました。今後は夕張の歴史、また日本の産業の礎を築いた石炭産業の歴史を後世まで伝える施設として充実させていく任務があると考えます。

また、財政破綻から10年目を迎えた夕張は今、新たな、そして大きな変革の一步を踏み出そうとしています。

一方で、この5年間で少子高齢化はさらに進み、市内の高齢化率は50%に届こうという状況です。

夕張市教育委員会では、こうした地域課題を踏まえ、柔軟な発想と将来を展望した社会教育行政を推進するために、第6次夕張市社会教育中期計画（平成29年度から平成33年度）を策定することといたしました。

つきましては、地域創生の視点に立った社会教育推進のための基本方針と、時代の要請に応える主要施策について諮問いたしますので、平成28年12月を目途に答申くださいますようお願い申し上げます。

#### （検討の視点）

- 1 社会教育の現状と課題
- 2 地域課題を踏まえた社会教育推進の方向性と主要施策
- 3 持続可能なまちづくりに向けた“市民に求める力”

平成 28 年 12 月 20 日

夕張市教育委員会  
委員長 佐々木 敦 様

夕張市社会教育委員の会  
委員長 小 網 敏 男

第 6 次夕張市社会教育中期計画の策定にむけた主要課題について(答申)

平成 28 年 9 月 1 日付けで夕張市教育委員会から諮問を受けました「第 6 次夕張市社会教育中期計画の策定」について、夕張市社会教育委員の会では、これまでの約 3 か月に渡り協議をしてまいりました。

協議にあたっては社会教育担当者からの前計画の評価資料及び、社会教育委員による各分野に対する意見収集アンケートをもとに検討し、今後 5 年間の目標を「広がりのある社会教育体系に向けて」と定め、この度、別冊のとおり答申としてまとめました。

この 10 年の間に本市の住民意識や市民活動の形は大きく変容し、社会教育行政に期待される役割も少しずつ変わってきています。

この答申が、市民がいきいきと暮らす生涯学習から始まるまちづくりへの一助になることを願い、関係各位の一層の努力と連携による取り組みに期待いたします。

＊第6次社会教育中期計画策定審議経過＊

月 日	会 議 等	内 容
28年 9月 1日		諮問
28年 9月12日		第5次中計「推進状況と今後の課題」提出
28年 9月23日		社会教育委員アンケート送付
28年10月25日		アンケート集約
28年12月 9日	社会教育委員会議・ 策定委員会	答申（案）について
28年12月20日		答申

＊第6次社会教育中期計画策定委員名簿＊

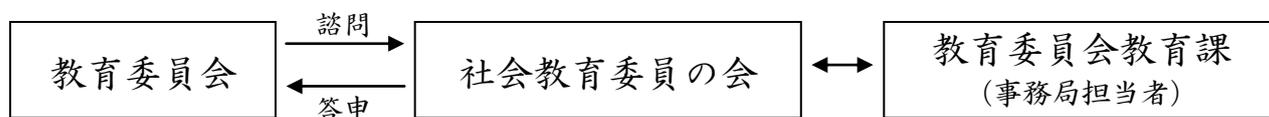
社会教育委員の会

委員長 小 網 敏 男	
委 員 八 柳 克 博	委 員 堀 内 郁 子
委 員 一 色 恒 弘	委 員 小 竹 陽 子

教育委員会事務局（社会教育担当）

教 育 課 (社会教育担当)	教育課 課 長 押野見 正 浩
	教育係 係 長 高 橋 賢 一 (学芸員)
	主 査 木 村 愛 (社会教育主事)
	主 任 大 坪 孝
	事務員 箕 浦 晃 子
	嘱 託 下 山 裕 美 (公民館主事)
	嘱 託 平 井 由美子 (司書)
	地域おこし協力隊 原 田 唯 史
	地域おこし協力隊 澤 出 有 里

＊構 造 図＊



# 夕張市民憲章

わたしたちは、開基以来石炭とともに生き、きびしい自然や環境に立ち向かってきた、夕張の市民です。

この輝かしい歴史の上に立ち、さらにわたしたちのしあわせを高めるために健康な市民、明るい家庭、住みよいまちづくりをめざして、この市民憲章を定めます。

## 1. 心とからだをきたえ

たくましい市民になりましょう。

——夕張市民の誇りと責任にかけて——

## 2. みんなで話し合い、楽しい家庭を築きましょう。

——きょうに悔なく、あすに夢を託して——

## 3. みんなのしあわせを願ひ

豊かなまちをつくりましょう。

——郷土の発展に市民の総力を集めて——

昭和47年11月3日制定